

ヒヤリ・ハット情報及び潜在的減災力の確認を通じた地域減災マップの作成

減災復興政策研究科 澤田 雅浩

キーワード ハザードマップ、大縮尺、住民協働、社会的包摂**研究概要**

近年、各地で自然災害が発生し、被害が生じている。

その備えの一環として行政がハザードマップを作成、公表を進めている。情報公開によって地域住民の関心を高め、具体的な防災減災対策につなげようという意図で取り組まれているが、無関心層も多く、実態として地域の有効な取り組みへと繋がりがきれていない状況にもある。

特に風水害、土砂災害では、前触れとなる現象もあり、地域の状況を勘案して適切な避難行動(自宅にとどまるケースも含む)を取ることが可能となっている。

これらを実現する手段としては、地域住民が主体的にリスクを整理しつつ、それへの対応を図ることも取り組みを進化させる際に重要な一歩となる。その際、行政により公開されるよりも大縮尺の地図を活用し、ワークショップ形式でこれまでの「ヒヤリ・ハット」な経験や、これまでは共有されていない地域資源の活用による安全の確保可能性などを明らかにし、より地域の実情に応じた対策へと展開するきっかけを創出する。

アピールポイント

オープンデータを活用しつつ、おおむね小学校区単位の大縮尺地図を用いたワークショップを実施する。これまでの経験や、地域住民だからこそわかる地域資源の洗い出しを行うことで、普段の生活の延長線上としての防災減災対策へと展開することができる。

応用分野

自主防災組織の活動支援に加え、学校区単位での取り組みにすることで、地域と学校の連携授業へも展開可能である。